

NT（準絶滅危惧）

カメムシ目 ミズギワカメムシ科

ヒメミズギワカメムシ

Micracanthia hasegawai (Cobben, 1985)

小型の円形から楕円形の種で、体長は2.5～3.5mm。体は黒色で、多数の黄褐色紋がある。短翅型とまれに長翅型が知られ、体表および半翅鞘は淡色の毛で覆われる。国内では北海道と本州北部（青森県、秋田県）から知られるが、産地は極めて局限される。湿原やその付近の湿った地上で生活する（15-1）。

カテゴリー判定基準：b)

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	NT	NT

執筆者：林 正美（埼玉大学）

カメムシ目 サンゴアメンボ科

サンゴアメンボ

Hermatobates weddi China, 1957

東洋区とオーストラリア区に広く分布し、日本ではトカラ列島以南の琉球列島に分布する。楕円形で体長3～4mm（無翅型のみ）。全体がビロード状の黒色で、毛が密生する。胸部と腹部は癒合し、腹部は小さく後方上部に位置する。雌雄で形態が異なる部分があり、オスの前脚は大きく太くなり、メスの胸背は左右に分かれている。サンゴ礁など海岸岩礁地帯の潮間帯に生息し、干潮時に海面上をカーブを描いて素早く疾走する。海岸の岩礁部が減少したこと（14）や海水の汚れ等（31）により、産地数ならびに個体数が減少しつつある。

カテゴリー判定基準：a), b)

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	—	NT

執筆者：林 正美（埼玉大学）

カメムシ目 コオイムシ科

コオイムシ

Appasus japonicus Vuillefroy, 1864

オスが背中で卵塊を保護する有名な昆虫である。体長17～20mm、体は楕円形で淡褐色から黄褐色。水深の浅い開放的な止水域に生息し、オタマジャクシ、小魚、ヤゴ、巻貝などを捕食する。国内では本州から九州に分布し、かつては普通に見られたが、農業等による水質汚染によって、近年では一部の地域を除いて激減している（31、32）。

カテゴリー判定基準：a), b)

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	NT	NT

執筆者：林 正美（埼玉大学）

カメムシ目 タイコウチ科

エサキタイコウチ

Laccotrephes maculatus (Fabricius, 1775)

国内では八重山諸島の与那国島だけに分布する。小型種で、呼吸管を除く体長は16～18mm。水草が繁茂する水路や水たまりに生息する。分布が限られているうえに、埋め立てや耕地化（12、15-2）により消滅した産地もあり、絶滅が懸念される。

カテゴリー判定基準：a), b)

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	NT	NT

執筆者：林 正美（埼玉大学）